

事業名 妙高フレンドスクール

目的 生活体験や自然体験などの諸活動をとおして、自他を大切にする心や社会性を育むとともに、個人のコミュニケーション能力を育成する。
 規則正しい生活をとおして、望ましい生活リズムの確立を図る。
 自分自身の生活を振り返り、家族の一員としての自覚と自立心を養う。
 市内5つの学校の児童が共同生活を送ることで、中学校入学時における人間関係を円滑にする。

実施主体 妙高フレンドスクール実行委員会

参加対象 市内全小学校の6年生（3つのブロックに分け実施）

参加者数 307名

回数 3回 **日数** 6泊7日

場所 国立妙高青少年自然の家及びその周辺

内容

回	期日・時間	テーマ	講師等
1 ブロック 3 ブロック	①6月22日（日） ～6月28日（土） ②6月29日（日） ～7月5日（土） ③8月31日（日） ～9月6日（土）	友達と協力して、最後までやりぬこう！	国立妙高青少年自然の家 専門指導員ほか
	内容・方法	平成18年度から取り組んでいる本事業について、本年度も青少年健全育成の一環として長期宿泊体験活動を以下のとおり行った。 ①6泊7日の長期宿泊体験活動を実施 期間を通じて児童は、国立妙高青少年自然の家に滞在した。学校の枠を超えた班編成を行い、体験活動を行った。 ②各種体験活動の実施 国立妙高青少年自然の家周辺の豊かな自然環境を生かした多様な体験活動（火山学習、登山、森の秘密基地づくりなど）を実施した。 ③チャレンジタイムの実施 最終日には、児童が班で決めた体験活動（野外炊飯や施設周辺の材料を使用したクラフトづくりなど）を実施した。児童はこの活動に向け、毎日、夕食後に大学生スタッフによる指導を受けながら班別に話し合いや準備を行った。	

成果

- ・ 妙高フレンドスクールの成果は以下のとおりです。
 - ①妙高フレンドスクールでは、多様な体験プログラムを組み込んでいる。児童は仲間と協力し、励まし合いながら最後までやりぬく大切さを学んだ。
 - ②毎日の話し合い活動では、自分の考えを持ち、他者の意見を尊重するなどの自他を大切にする心や社会性、コミュニケーション能力が育成された。
 - ③規則正しい生活習慣が育成された。
 - ④1週間家族と離れることで、家族の大切さを学んだ。

課題

- ・ 活動期間が1週間に渡るため、疲労などによる児童への負担が大きい。平成21年度は、期間を5泊6日に改めるとともに、2つのブロックを同日に開催する計画である。実施に向け、運営方法やスタッフ体制などの課題があり、現在調整中である。

問合せ先 新潟県妙高市教育委員会 生涯学習課（寺島） TEL：0255-74-0034